# PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number:

11-305474

(43)Date of publication of application: 05.11.1999

(51)Int.CI.

G03G 5/10

B32B 27/18

G03G 21/00

(21)Application number: 10-109681

(71)Applicant: MITSUBISHI CHEMICAL CORP

(22)Date of filing:

20.04.1998

(72)Inventor: MORIKOSHI MAKOTO

OTSU NORIHIRO

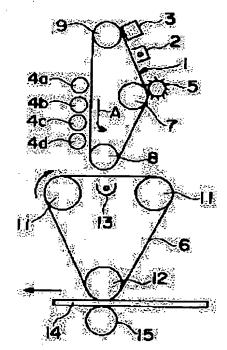
FURUTA KATSUHIRO SUZUKI SHINICHI

#### (54) SEAMLESS PHOTORECEPTOR BELT

#### (57)Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide a seamless photoreceptor belt with an excellent image and durability by applying a photoreceptor layer on a seamless belt equipped with a surface layer controlled to some fixed resistance dispersion and some fixed resistance variation in some specified semiconductor area.

SOLUTION: This seamless belt 1 is obtained by applying the photoreceptor layer on the surface layer of the seamless belt 1 being the base substance of the photoreceptor. As for the average value of an electric resistance value in the surface layer of the seamless belt 1; volume resistivity is within a range being  $\geq 1 \times 100$   $\Omega.$ cm and  $\leq 1 \times 1010$   $\Omega.$ cm and surface resistivity is within a range being  $\geq 1 \times 100$   $\Omega/(square)$  and  $\leq 1 \times 100$   $\Omega/(square)$ , and the dispersion expressed by the maximum value/minimum value of the volume resistivity and the surface resistivity at the respective parts of the seamless belt is within a range being 1 to 100, tesistance change expressed by the maximum value/ minimum



value in optional 20 mm on the seamless belt is within 8, and the contact angle of the surface of the seamless belt with water is  $\leq 105^{\circ}$ 

#### **LEGAL STATUS**

[Date of request for examination]

01.08.2002

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

(表面)(3)(A) 

of the Lord MTSUBUST AND DAILORS of the

THOMAS THEOLOGICAL CONTROL opania Augori

CELEBRICA ACTOR

THE MITTER DAYSHE

SHEET STATE OF STATE OF STATE

The way are appointed in a long of the determinations the season with the second of the second of the second of the rolling and the long of the relation of the state of the same of t and the second section of the second section of

the property of the Commence of the

Control of the State of the Sta The property of the control of the c the state of the s Libert Call to be seen

and present the second of the second present the second of Programme and the state of the

displaying the Nation of the control

[Date of registration]
[Number of appeal against examiner's decision of rejection]
[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]
[Date of extinction of right]

Copyright (C); 1998,2003 Japan Patent Office

THIS PAGE BLANK (USPTO)

# (19)日本国特許庁 (JP)

# (12) 公開特許公報 (A)

# (11)特許出願公開番号

# 特開平11-305474

(43)公開日 平成11年(1999)11月5日

(51) Int.Cl. <sup>6</sup> 融別記	身、 NS K NEW LL FO IA			
G03G 5/10	militaria en la lacación de la companya de la comp			
	والمستريدة والمستريدة		5/10	<b>Z</b>
G03G 21/00 350			27/18	HA KING TOWN
		0 3 G	21/00	350

	審査請求 未請求 請求項の数6 OL (全 11 頁)
(21)出願番号 特願平10-109681 (22)出願日 平成10年(1998) 4月20日	(71)出願人 000005968 三菱化学株式会社 東京都千代田区丸の内二丁目5番2号
Recommendation of the programme of the control of t	二里県四日市市東邦町 1 番地 三菱化学株式会社四日市事業所内
	二里県四日市市東邦町 1 番地 三菱化学株 式会社四日市事業所内 (72)発明者 古田 克宏
	三重県四日市市東邦町1番地 三菱化学株 式会社四日市事業所内

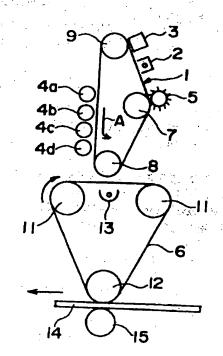
#### (54) [発明の名称] シームレス感光体ベルト

# (57)【要約】

10.1

 $\mathcal{A} = M(\mathcal{A}^{(n)}, x) \in (\mathfrak{g}_n \times \mathcal{E}_n, x)_{\mathcal{F}_n}$ 【課題】 ある特定の半導電領域で、ある一定の抵抗は、 らつきとある一定の抵抗変化量にコントロールした表面 層を備えるシームレスベルト上に感光層を塗布すること により優れた画像と耐久性を備えるシームレス感光体ベ 

【解決手段】『『感光体基体となるシームレスベルトの表示』』 面層上に感光層を塗布することにより得られ、このシー ムレスベルトの表面層における電気抵抗値の平均値が、 体積抵抗率で1×10°Q. で m以上、1×10°Q. We be and c m以下、表面抵抗率で1×10°Q/□以上、1×1 010 Q/口以下の範囲にあり、前記シームレスベルト各 部における体積抵抗率と表面抵抗率の最大値/最小値で 表されるばらつきが1~100倍の範囲にあり、かつシ ームレスベルト上任意の20mm間での最大値/最小値 で表される抵抗変化が8以内で、シームレスベルト表面 の水との接触角が105度以下であることを特徴とす



(74)代理人 弁理士 遠山 勉

#### 【特許請求の範囲】

【請求項1】 感光体基体となるシームレスベルトの表 面層上に感光層を塗布するととにより得られるシームレ ス感光体ベルトであって、

前記シームレスベルトの表面層における電気抵抗値の平 均値が、体積抵抗率で1×10°Ω. cm以上、1×1 0°Ω. cm以下、表面抵抗率で1×10°Ω/□以 上、1×10<sup>1</sup> ♀ 2/□以下の範囲にあり、前記シームレ スベルト各部における体積抵抗率と表面抵抗率の最大値 /最小値で表されるばらつきが1~100倍の範囲にあ り、かつ前記シームレスベルト上任意の20mm間での 最大値/最小値で表される抵抗率変化が8以内で、前記 シームレスベルト表面の水との接触角が105度以下で あることを特徴とするシームレス感光体ベルト。

【請求項2】 前記シームレスベルトが導電性フィラー を含有する熱可塑性樹脂組成物を環状ダイから押出し成 膜されたことを特徴とする請求項1に記載のシームレス 🐇 感光体ベルト。江南田、西山太下を発展し、海楽展官

【請求項3】 前記シームレスベルトが熱可塑性樹脂に 導電性フィラーとしてアセチレンブラックを10重量%~20~欠陥となるため、継ぎ部に画像が乗らないように感光体 以上20重量%以下の割合で配合された層を少なくとも 1層有することを特徴とする請求項1又は2に記載のシ **州**沙 明的 情報的 ームレス感光体ベルト。

【請求項4】 前記シームレスベルトが100℃におけ る熱収縮率が5%以内である請求項1、2又は3のいず れかに記載のシームレス感光体ベルト。

【請求項5】 前記シームレスベルトの長手方向の内径 の変化量が平均値に対して、±0.3%以内、厚みばら つきが±5%以内の範囲であることを特徴とする請求項 1~4のいずれかに記載のシームレス感光体ベルト。

【請求項6】 前記シームレスベルトが基体外表面十点 平均組さが3μm以下である請求項1~5のいずれかに 記載のシームレス感光体ベルド。

### 【発明の詳細な説明】

[発明の属する技術分野] 本発明はシームレス感光体へ ルトに関し、更に詳細には電子写真において使用される シームレス感光体ベルトに関する。

### [0002]

【従来の技術】電子写真式複写機等の感光装置において はエンドレスベルトが多用されている。図1はフルカラ 一用感光装置の構造を概略的に示す構成説明図である。 **との種のフルカラー用感光装置では、感光体ベルト1、** 中間転写体6を備えている。

【0003】感光体ベルト1の周囲には、帯電器2、半 導体レーザーなどを光源とする露光光学系3、トナーが 収納されている現像器4a~4d、及び残留トナーを除 去するためのクリーナー5よりなる電子写真プロセスユ ニットが配置されている。感光体ベルト1は、搬送ロー ラ7、8、9に掛け渡されて、矢印方向に移動するよう になっている。...

【0004】次に、とのフルカラー用感光装置の動作に ついて説明する。最初に、矢印A方向に回転する感光体 ベルト1の表面を帯電器2により一様に帯電する。次 に、図示しない画像読み取り装置などで得られた画像に 対応する静電潜像を露光光学系3により感光体ベルト1.... 上に形成する。静電潜像は現像器4でトナー像に現像さ れる。とのトナー像を、静電転写機1 3 により中間転写 体6へ静電転写し、搬送ローラ12と押圧ローラ15とっ の間で記録紙14に転写する。

【0005】とのような従来の電子写真式複写機等の感 光装置において、感光体ベルトとしては以下の2つのも のが実用化されている。その1つは、アルミニウムを蒸 着した樹脂フイルム(感光体基体)上に感光層を塗布形 成した後、フイルムの両端を継ぎ合わて無端ベルト状と した感光体ベルトであり、もう一つは、電鋳ニッケルを 用いたシームレス導電性基体(感光体基体)上に感光層 を塗布して感光体ベルトとしたものである。

【0006】しかしながら、前者は、継ぎ目部分が画像 ベルトの位置を検知するシステムが必要となりマシーン コストが高くなるばかりか、継ぎ目の強度にも問題があ った。他方、後者の感光体ベルトは、基体が金属である ことからフレキシブル性に乏しく実用性に問題があっ

【0007】そこで、樹脂性のシームレスベルトを感光 体基体とする感光体ベルトの開発が望まれており、以下 のものが提案されている。

①ポリイミド溶液を回転ドラム上にキャスト成形し硬化 反応して得たシームレスベルトを感光体基体として作製 し、その後このシームレスベルトに導電層、感光層等を 1941、新华、李明、李二章 塗布して構成するもの、

②ポリエステルを環状ダイより押し出してシームレスベ ルトを感光体基体として作製し、その上に導電層、感光 層等を塗布して構成するもの、

◎導電性フィラーを混入したポリイミド分散液をキャス ト成形や遠心成形したシームレス導電性ベルト(感光体) 基体)に導電層や感光層等を塗布して構成するもの、

②ポリエステルやポリカーボネート等の特定の熱可塑性 樹脂組成物にカーボン等の導電性フィラーを含有した熱 可塑性樹脂組成物を環状ダイより押し出したシームレス 導電性ベルト (感光体基体) に導電層や感光層等塗布し て構成するものが提案されている。

【0008】しかし、上記①項と②項に記載された感光 体ベルトについては、シームレスベルトに導電層を塗布 する工程が必要となり、工程が複雑で生産性が劣るとい った問題や導電層を塗布する工程で導電性のばらつきが 発生するといった問題があった。上記の項に記載された 感光体ベルトについては、溶媒中に導電性のフィラーを 分散させているためか、溶媒中でカーボンが動き、カー

ボン分散を均一にコントロールすることが困難で、電気 抵抗にばらつきが発生する。

【0009】そのため、このシームレスベルトに感光層 を塗布して感光体ベルトとして使用すると、画像ムラが 発生するといった問題があった。更には、シームレスベ ルトが溶媒を使用して作成されたものであるために、残 留溶媒が感光層を侵し、画像異常を発生させることもあ った。また、バッチ式での生産になるため生産性に劣る といった問題もあった。

るため生産性には優れるが、導電領域にするためにカー ボン等を絶縁性の樹脂に混ぜ合わせるためか、カーボン 分散が均一になりにくく、電気抵抗にばらつきが発生 し、そのためか、原因不明の画像ムラが発生する場合ば かりか、カーボンを大量に入れて導電性を発現させなく ではならずベルトが割れやすく感光体ベルトとして使用 されるには至っていなかった。

# [0011]

【発明が解決しようとする課題】そこで、本発明者等は 鋭意検討した結果、感光体基体の電気抵抗が導電領域で はなくても、ある特定の半導電領域で、ある一定の抵抗 ばらつきとある一定の抵抗変化量にコントロールした表 面層を備えるシームレスベルト即ち感光体基体上に感光 層を塗布した構成のシームレス感光体ベルトであれば優 れた画像と耐久性が得られることを知見した。すなわ ち、局部的な抵抗変化率がある一定範囲以内の感光体基 体を用いれば鮮明な画像が得られることを突き止めた。 【0012】また、本発明に係る、電気抵抗を有するシ ームレスベルト上に感光層を塗布したシームレス感光体 ベルトは、導電領域の必要性がないため、必要以上に付 加的成分を混ぜ合わせる必要がなく、優れた耐久性を合 わせ持つととが分かった。

#### [0013]

A. Year

【課題を解決するための手段】本発明はシームレス感光 体ベルトであり、前述した技術的課題を解決するために 以下のように構成されている。すなわち、本発明は、感 光体基体となるシームレスベルトの表面層上に感光層を 塗布するととにより得られるシームレス感光体ベルトで あって、シームレスベルトの表面層における電気抵抗値 の平均値が、体積抵抗率で1×10°Q. cm以上、1 ×10<sup>1</sup>0. cm以下、表面抵抗率で1×10°Q/口 以上、1×10<sup>10</sup>Q/□以下の範囲にあり、前記シーム レスベルト各部における体積抵抗率と表面抵抗率の最大 値/最小値で表されるばらつきが 1~100倍の範囲に あり、かつ前記シームレスベルト上任意の20mm間で の最大値/最小値で表される抵抗率変化が8以内で、シ ームレスベルト表面の水との接触角が105度以下であ ることを特徴とする。

【0014】このようなシームレス感光体ベルトにおい て、シームレスベルトが導電性フィラーを含有する熱可 50 ればならない。

塑性樹脂組成物を環状ダイから押出成膜されて形成され たものであるととが好ましい。また、シームレスベルト は熱可塑性樹脂にアセチレンブラックを10重量%以上 20重量%以下の範囲で配合した層を少なくとも1層有 することが好ましい。そして、更に、シームレスベルト は、125℃における熱収縮率が5%以内であることが 好ましい。 更にまた、シームレスベルトの内径ばらつき。 が±0.3%以内、厚みばらつきが±5%以内の範囲で 【0010】また、上記④項については、連続成形によ 10 けるベルト外表面十点平均粗さが3μ皿以下であること あることが好ましく、加えてこのシームレスベルトにお も好ましい。 [0.015]

【発明の実施の形態】以下、本発明のシームレス感光体 ベルトを具体例を挙げて更に詳細に説明する。

(-1-)-シームレス感光体ベルトの構成:本発明のシーム レス感光体ベルトを電子写真感光体ベルトとして用いる 時、そのシームレス感光体ベルトの層構成には以下に示 す既存の有機電子写真感光体として提案されているもの が使用できる。

【0016】すなわち、本発明のシームレス感光体ベル トは、ある特定範囲の電気抵抗に制御された導電性シー ムレスベルト (感光体基体) の外周面上に電荷発生剤と 電荷輸送剤を合わせた単層型感光層を塗布したものや、 **導電性シームレスベルトの外周面上に電荷発生層を塗布** し、次に電荷移動層を順次塗布した積層型感光層を形成。 したものでもよい。

【0017】更に、感光層の表面の傷防止、トナーがフ ィルム上に固着堆積することを防止する目的で最外層に 保護層を塗布したものや、感光層で発生した電荷が導電 性シームレスベルト側へ移動を阻止する目的で、下引き 層、ブロッキング層を導電性シームレスベルトと感光層 の間に入れた構成でもよい。

【0018】(2)シームレスベルト(感光体基体)の 電気抵抗:シームレス感光体ベルトを構成する感光体基 体即ちシームレスベルトの電気特性は、体積抵抗率が1 ×10°から1×10°Q. cm、表面抵抗率が1×1 0°から $1 \times 1.0$   $^{\text{\tiny "Q/}}$ 口の範囲にあり、そのばらつき が100倍以内でなければならない。好ましくは、体積 抵抗率が1×10°から1×10°Q.cm、表面抵抗率、 が1×10'から1×10°Q/□の範囲で、そのばらつ きが20倍以内、更に好ましくは10倍以内である。 【0019】電気抵抗値がこれより低い場合は、大量に

**導電性物質を加える必要が生じ、そのためシームレスベ** ルトの成形性を著しく損なうばかりか、シームレスベル トがもろくなり、機械的強度が低下する。電気抵抗値が これより高い場合は、導電体としての役割を果たさなく なり、帯電が不安定になったり、感光体の光応答が低下 する。従って、感光体基体としての電気抵抗値は上述し た通り、ある特定範囲の半導電領域に制御されていなけ

【0020】また、抵抗変化率については、ある一定の変化率でないと、一旦帯電した電荷が抵抗の低い方へ移動してしまい、画像に影響を与える。そのため体積抵抗率と表面抵抗率の変化率がベルト上任意の20mm間での最大値/最小値で8以内であることが重要である。特に、体積抵抗率が1×10°から1×10°Ω.cm、表面抵抗率が1×10°から1×10°Ω.cm、表面抵抗率が1×10°から1×10°Ω.cm、表面抵抗率が1×10°から1×10°Ω/□の範囲にあり、体積抵抗率と表面抵抗率の変化がベルト上任意の20mm間での最大値/最小値で6以内である導電表面層を有するシームレスベルト上に感光層などが塗布されて10なるシームレス感光体ベルトが好ましい。

【0021】(3)シームレスベルト(感光体基体)の内径精度:シームレス感光体ベルトを構成する感光体基体であるシームレスベルトは、最も内側に位置する構成要素として使用されることになるため、シームレスベルトの内径精度は、特に重要となる。すなわち、シームレスベルトの内径精度は、ある一定の範囲以内でなければ、ベルトの蛇行を招き、ベルトとローラー端部との接触を起こしたり、或いはベルト両端部に取り付けられた蛇行防止用ゴムガイド部とベルトに極度にストレスが加20わり破断しやすくなる。そして、シームレスベルトの幅方向の内径のばらつきは±0.3%以内が好ましく、更に好ましい内径精度は±0.1%以内である。

【0022】(4)シームレスベルト(感光体基体)の製造方法:シームレス感光体ベルトを構成する感光体基体であるシームレスベルトの製造方法としては特に制限はなく公知のものが挙げられるが、特に好ましいシームレスベルトの製造方法としては、押出し機先端に取り付けた環状ダイより熱可塑性樹脂、エラストマー等をチューブ状に溶融押出し、チューブの外部及び/又は内部を冷却して連続的にシームレスチューブを成形することが可能な溶融押し出し成形法が連続生産性、電気抵抗の均一性、内径の均一性の点で好ましい。

4/14

【0023】押出し方向は垂直方向、水平方向どちらでも構わないが、チューブの内径を高精度で制御可能な重力に影響を受けない垂直方向の下方押出し方式が好ましい。また、環状ダイとしては、サイドフィードダイやマンドレルサポートダイやクロスへッドダイ、オフセットダイ等が挙げられるが、樹脂合流部で厚みムラ、電気抵抗値の変動が発生しにくいスパイラルダイが好ましい。【0024】さらに、均一な抵抗値を得るために、ギャポンプで溶融樹脂温度を均一にコントロールしたり、ダイス内の温度や、溶融樹脂温度を均一にコントロールしたり、ダイス内に分割したヒーター等を設けダイス内の温度や溶融樹脂温度を個別に独立してコントロールしてもよい。重要なことは、シームレスベルトの抵抗値ばらつきが、ある一定範囲に制御されていることである。

【0025】 このようなシームレスベルト上に感光層等をコートさせる方法としては、特に制限はないが、シー 50

ムレスベルトと感光層を多層で押出し成形してもよいし、シームレスベルトのみを押出し成形で作り、ブロッキング層や感光層等を浸漬塗布、スプレー塗布、又はヒーム塗布等公知の塗布方法により塗布してシームレス感光体ベルトとしてもよいし、シームレスベルトから感光層まで全て浸漬塗布、スプレー塗布、ビーム塗布等の公知の塗布方法により順次重ね合わせ塗布してシームレス感光体ベルトとしてもよく、特に制限はない。

【0028】生産性や電気抵抗の均一性等を考慮した場合のシームレス感光体ベルトの製造方法としては、シームレスベルトを押出し成形で作り、プロッキング層や感光層等を浸漬塗布、スプレー塗布、ビーム塗布等の公知の塗布方法により塗布して製造することが好ましい。

【0027】(5)シームレスベルト(感光体基体)の 材料:本発明において適用されるシームレスベルトの樹 脂組成物は、熱可塑性樹脂であり、導電性フィラーを配 合したものも含まれる。

【0028】熱可塑性樹脂としては、エチレン(高密 度、中密度、低密度、直鎖状低密度)、プロピレンエチ レンプロックまたはランダム共重合体、ゴムまたはラテ ックス成分例えばエチレン・プロピレン共重合体ゴム、 スチレン・ブタジェンゴム、スチレン・ブタジェン・ス チレンブロック共重合体またはその水素添加誘導体、ボ リブタジエン、ポリイソブチレン、ポリアミド、ポリア ミドイミド、ポリアセタール、ポリアリレート、ポリカ ーポネート、ポリフェニレンエーテル、変成ポリフェニ レンエーテル、ポリイミド、液晶性ポリエステル、ポリ エチレンテレフタレート、ポリスルフォン、ポリエーテ ルスルフォン、ポリフェニレンサルファイド、ポリビス アミドトリアゾール、ポリプチレンテレフタレート、ポ リエーテルイミド、ポリエーテルエーテルケトン、アク リル、ポリフッ化ピニリデン、ポリフッ化ピニル、エチ レンテトラフロロエチレン共重合体、ポリクロロトリフ ルオロエチレン、テトラフルオロエチレンヘギサフルオ ロブロビレン共重合体、テトラフルオロエチレンバーフ ルオロアルキルビニルエーテル共重合体、ポリテトラフ ルオロエチレン、フッ素ゴム、アクリル酸アルギルエス テル共重合体、ポリエステルエステル共300000fd合 体、ポリエーテルエステル共重合体、ポリエーテルアミ 下共重合体、オレフィン共重合体、ポリウレタン共重合 体、の1種又はこれらの混合物からなるもの等が使用さ れる。

【0029】特に好ましい樹脂は、ポリフゥ化ビニリデン、ポリフゥ化ビニル、エチレンテトラフロロエチレン共重合体、ポリクロロトリフルオロエチレン、テトラフルオロエチレンへキサフルオロプロビレン共重合体、デトラフルオロエチレンパーフルオロアルキルビニルエーテル共重合体、ポリテトラフルオロエチレン等のフッ素樹脂やフゥ素ゴムがトナー等からの汚れを防止するためにも好ましく、また、ポリカーボネートやポリブチレン

テレフタレート、ポリエチレンテレフタレート、ポリエ ステルエステル共重合体、ポリエーテルエステル共重合 体等のエステル系熱可塑性樹脂が耐電気特性において電 気抵抗値の変動が少なく安定のため好ましい。

【0030】導電性フィラーとしては、カーボンブラッ ク、グラファイト、カーボン繊維、金属粉、導電性金属 酸化物、有機金属酸化物、有機金属化合物、有機金属 塩、導電性高分子等から選ばれる少なくとも1種または これら数種の混合物からなるものが好ましい。その中で も特にカーボンブラックが好ましい。カーボンブラック 10 としては、アセチレンブラック、ファーネスブラック、 チャンネルブラック等のカーボンブラックがある。フィー ルムの外観を損なわないためにも分散性に優れたアセチ レンブラックが好ましい。

【0031】カーボンブラックの配合量は、カーボンブ ラックの種類により異なるが、アセチレンブラックの場 合、熱可塑性樹脂に3~25重量%で配合されていると とがが好ましく、さらには、熱可塑性樹脂に10~20 重量%配合されていることが特に好ましい。ケッチェン ブラックの場合には1~10重量%が好ましく、アセチ レンブラックと併用して用いてもよい。上記範囲未満で は導電性に乏しく、上記範囲以上では製品の外観が悪く なり、また材料強度が低下して好ましくない。

【0032】樹脂組成物には、本発明の目的を阻害しな い限りにおいて、通常の樹脂組成物に配合される各種の 付加的成分を含むことができる。このような成分として は、酸化防止剤、滑剤、離型剤などがある。

【0033】更に、発明の効果を著しく損なわない限 り、上記以外の以下のような付加成分を更に添加しても 構わない。熱可塑性樹脂、熱硬化性樹脂、各種フィラー 30 【0039】(10)補強テープ:また、シームレス感・ としては、例えば、炭酸カルシウム、タルク、マイカ、 シリカ、アルミナ、水酸化アルミニウム、水酸化マグネ シウム、硫酸パリウム、酸化亜鉛、ゼオライト、ウオラ ストナイト、けいそう土、ガラスピーズ、ベントナイ ト、モンモリナイト、アスベスト、中空ガラス球、黒 鉛、二硫化モリプデン、酸化チタン、アルミニウム繊 椎、ステンレススチール繊維、黄銅繊維、アルミニウム 粉末、木粉、もみ殼、グラファイト、金属粉、導電性金 厲酸化物、有機金属化合物、有機金属塩等のフィラーを あげることができる。

【0034】また、添加剤としては、例えば、酸化防止 剤(フェノール系、硫黄系等)、滑剤、有機・無機系の 各種類料、紫外線吸収剤、帯電防止剤、分散剤、中和 剤、発泡剤、可塑剤、銅害防止剤、架橋剤、流れ性改良 剤等を挙げることができる。 A STATE OF THE STATE

【0035】(6)シームレスベルトの外表面粗さ:感 光体基体であるシームレスベルトの粗さは、十点平均和 さで3μm以内であることが好ましい。トナーの平均粒 径は一般に5μmから8μmであり、その粒径分布に幅 があるため十点平均粗さが3μmを越えると感光層を塗 50 ン、ピリリウム塩、ペリレン、インジゴ、チオインジ

布した後の表面が粗くなり、粒径の小さいトナーがシー ムレス感光体ベルトの微少の凹凸にめり込み、トナーがご フィルム上に固着堆積し、紙への転写効率が悪化した り、抵抗値が変化したりするため画像ムラになるといっ たととがある。さらに、"好ましいシームレスペルトの粗 さは十点平均粗さで1μm以内である。

【0036】(7)シームレスベルトの熱収縮率: 感光 体基体であるシームレスベルドの10°Cでの熱収縮率 は、5%以下が好ましい。電子写真装置においては装置 内の雰囲気温度が局所的に100°Cに達する場合もあり その時の収縮率が5%を越えるとベルト内径が小さくな り、2本以上のローラで張架して駆動させた場合、装置 内の温度差でベルト両端のテンションが変わり蛇行する。 問題や、収縮により電気抵抗値が変化するといった問題で が発生する。好ましいくは100°Cでの熱収縮率が3% 以下である。とはは、これでは大き、おおには

【0037】(8)シームレスベルトの厚み:感光体基 体であるシームレスベルトの厚みは、25以上1000 μπ以下が好ましく、50μm以上200μm以下が更 に好ましい。25μm未満になると2本以上のローラで 張架して駆動させた時に伸びてしまい好ましくない。まて た、1000μmを越えるとシームレスチューブが硬く なり弾性変形をしなくなりフレキシブルでなくなり2本 以上のローラで張架して駆動させにくいため好ましくな

【0038】(9)接触角:シームレスベルト外表面の 接触角は、感光層とシームレスベルトの界面の接着性と 関係し、ある特定の範囲以下でなければ接着力がでなった。 い。好ましいのは100~70度である。

光体ベルトの強度を補う目的でシームレスベルト感光体 ベルトの両端部の外側及び/又は内側に、図2及び図3 に示されるようにPET等の補強テープ16を貼り付け た構成でも構わない。 . .

【0040】(11):蛇行防止ガイド:また、シームレ ス感光体ベルトの蛇行を防止する目的でシームレス感光 3 体ベルトの内側両端にウレタンやシリコン等によるJI SAによる硬度30~90度の蛇行防止ガイド1-7を設 けてもよい。その場合には、このシームレス感光体ベル 40 ト1が掛け渡される搬送ローラ7、8、9には、図2に 示されるように蛇行防止ガイド1.7が係合しながら通過 する溝18をそれぞれ形成しておく必要がある。

【0041】(12)感光層:

❶単層型感光層に含有される電荷発生剤としては、セレ ン及びその合金、ヒ素ーセレン、硫化カドミウム、酸化 亜鉛、硫化亜鉛、硫化アンチモン、Cds-Se等の合 金、酸化チタン等の酸化物系半導体、アモルファスシリ コンなどのシリコン系材料、その他の無機光導電物質、 フタロシアニン、アゾ色素、キナクリドン、多環キノ

ゴ、アントアントロン、ビラントロン、シアニン等の各種有機顔料、色素を使用することができる。中でも、無金属フタロシアニン、銅、塩化インジウム、塩化ガリウム、シリコン、錫、オキシチタニウム、亜鉛、バナジウム等の金属、又は酸化物、塩化物、水酸化物の配位したフタロシアニン類、モノアゾ、ヒスアゾ、トリスアゾ、ポリアゾ類等のアゾ顔料が望ましい。これらの電荷発生剤は、単独でまたは2種類以上を組み合わせて用いることができる。

【0042】②単層型感光層に含有される電荷輸送剤と 10 しては、ポリビニルカルバゾール、ポリビニルビレン、ポリアセナフチレン、ポリビニルアントラセン等の高分子化合物、又は各種ビラゾリン誘導体、カルバゾール誘導体、オキサゾール誘導体、ヒドラゾン誘導体、スチルベン誘導体、アリールアミン誘導体、オキサジアゾール誘導体、チアゾール誘導体、チアジアゾール誘導体、トリアゾール誘導体、イミダゾール誘導体、イミダゾーン誘導体、イミダゾリシン誘導体、スチリル化合物、ベンゾチアゾール誘導体、ベンズイミダゾール、アクリジン誘導体、フェナジン誘導体等の低分子化合物を使用する 20 ことができる。

【0043】以上の正孔輸送型の電荷輸送剤の他に、ベンゾキノン誘導体、ナフトキノン誘導体、アントラキノン誘導体、ジフェノキソン誘導体、フルオレノン誘導体等の電子輸送剤も必要により用いられる。とれら電荷輸送剤は、電荷発生剤との組み合わせ、極性等を考慮し1種、または2種以上を組み合わせて用いられる。

[0044] ③単層型感光層に含有される電荷発生剤、電荷輸送剤が膜形成能が乏しい場合には、バインダーボリマーを用いて形成されても良い。この場合、電荷発生層はこれらの物質とバインダーボリマーを溶剤に溶解あるいは分散して得られる塗布液を塗布乾燥して得ることができる。

【0045】パインダーとしては、例えばブタジエン、スチレン、酢酸ビニル、塩化ビニル、アクリル酸エステル、メタクリル酸エステル、ビニルアルコール、エチルビニルエーテル等のビニル化合物の重合体及び共重合体、ポリビニルアセタール、ポリカーボネート、ポリエステル、ポリアミド、ポリウレタン、セルロースエーテル、フェノキシ樹脂、ケイ素樹脂、エボキシ樹脂等が挙げられる。これらは適当な硬化剤等を用いて熱、光等により架橋させて用いることもできる。これらのバインダーは単独で、又は2種類以上を組み合わせて用いることができる。

[0046] ②感光層が単層構造の場合には、下記電荷 発生剤、電荷輸送剤、バインダーボリマーの他に添加剤 等を溶剤に溶解、分散した塗布液を同様の方法により基 板上に塗布することにより感光層が得られる。

【0047】塗布の際に使用される溶媒、分散媒としては、ブチルアミン、ジエチルアミン、エチレンジアミ

ン、イソプロパノールアミン、トリエタノールアミン、トリエチレンジアミン、N、Nージメチルホルムアミド、アセトン、メチルエチルケトン、シクロへキサノン、ベンゼン、トルエン、キシレン、クロロホルム、1、2ージクロルエタン、1・1・1・1ートリクロルエタン、トリクロルエタン、テトラクロルエタン、シクロルメタン、テトラヒトロフラン、ジオキサン、メチルフルコール、酢酸エチル、酢酸ブチル、ジメチルスルホキシー、メチルセルソルブ、等が挙げられる。これらの溶媒は、1種単独で使用してもよく、或いは2種以上を混合溶媒として用いても良い。

【0048】60一方、感光層が積層型構造の場合には、電荷発生層における電荷発生剤として単層型と同様なものが用いるととができるが、バインダーボリマーを加えてもよい。一般には、電荷発生剤100重量部に対し、電荷発生剤100重量部のバックを使用する。

【0049】電荷発生剤は、通常、ボールミル、超音波
の散器、ペイントシェイカー、アトライター、サンドグ
ラインダ等により適当な分散媒に分散、溶解し、必要に
応じてバインダー樹脂を添加しで塗布液を調整し、この
塗布液をディッピング法、スプレー法、バーコーター
法、プレード法、ロールコーター法、ワイヤーバー塗工
法、ナイフコーター塗工法、等の塗布法により塗布後、
乾燥する。また電荷発生層は上記電荷発生剤を蒸着、スパッタリング等の気相製膜法で製膜したものであっても
よい。電荷発生層の膜厚は、0.01~5μm、好まし
くは0.05~2μmの範囲が好ましい。

【0050】また、電荷輸送層において電荷輸送剤として単層型と同様なものを用いることができるが、バインダーポリマーを加えてもよく、その割合は特に制限はないが一般には電荷輸送剤100重量部に対し、10~500重量部、好ましくは30~300重量部のバインダーポリマーを使用する。

【0051】電荷輸送層は、バインダーとして優れた性能を有する上記のポリマーと混合して電荷輸送剤と共に適当な溶剤中に溶解し、得られた塗布液を電荷発生層と同様の方法により塗布することにより、製造することができる。電荷輸送層の膜厚は通常は10μm~50μm、好ましくは13μmから35μmの範囲がよい。【0052】⑥また、単層、積層いずれの場合でも、必要に応じて電子吸引性化合物、あるいは可塑剤、顔料その他の添加剤を添加しても良い。電子吸引性化合物としては、テトラシアノキノジメタン、ジシアノキノメタン、ジシアノキノビニル基を有する芳香族エステル類等のシアノ化合物:2、4、6ートリニトロフルオレノン等のニトロ化合物:ペリレン等の縮合多環芳香族化合物:ジフェノキノン誘導体:キノン類:アルデヒド類:

ケトン類;エステル類;酸無水物;フタリト類;置換及び無置換サリチル酸の金属錯体;置換及び無置換サリチル酸の金属塩;芳香族カルボン酸の金属錯体;芳香族カルボン酸の金属塩が挙げられる。

【0053】好ましくは、シアノ化合物、ニトロ化合物、縮合多環芳香族化合物、ジフェノキノン誘導体、置換及び無置換サリチル酸の金属錯体、置換及び無置換サリチル酸の金属塩;芳香族カルボン酸の金属錯体;芳香族カルボン酸の金属塩を用いるのがよい。

【0054】の更に、単層、積層いずれの場合でも、本 10 発明の電子写真用感光体の感光層は成膜性、可撓性、塗布性機械的強度、製膜性、耐久性等を向上させるために 周知の可塑剤、酸化防止剤、紫外線吸収剤、レベリング剤を含有していてもよい。

【0.05-5】 Φまた、単層、積層いずれの場合でも、とのようにして形成される感光体は必要に応じて、下引き層、ブロッキング層、表面保護層等を有していてもよいとは言うまでもない。下引き層は、通常、感光層と導電性シームレスベルトの間に使用され、通常使用される公知のものが使用できる。下引き層としては酸化チタン、酸化アルミニウム、ジルコニア、酸化珪素などの無機微粒子、有機微粒子、ポリアミド樹脂、フェノール樹脂、メラミン樹脂、カゼイン、ポリウレタン樹脂、エボキシ樹脂、セルロース、ニトロセルロース、ポリビニルアルコール、ポリビニルブチラールなどの樹脂等の成分を使用することができる。これらの微粒子、樹脂は単独でまたは2種以上を混合して使用できる。厚さは、通常0.01~50μm、好ましくは0.01~10μmである。

【0056】感光層と導電性シームレスベルトとの間に 30 公知のプロッキング層を設けることもできる。そして、 本感光体に表面保護層を設ける場合保護層の厚みは〇. 01~20μmが可能であり、好ましくは0.1~10 μπである。保護層には前記のバインダーを用いること ができるが、前記の電荷発生剤、電荷輸送剤、添加剤、 金属、金属酸化物、などの導電材料を含有しても良い。 【0057】(13)電子写真装置: このようにして得 られる電子写真感光体は優れた耐久性と画像が得られる シームレス感光体ベルトであり、複写機、プリンター、 ファックス、製版機等の電子写真分野に好適である。 【0058】本発明のシームレス感光体ベルトを電子写 真感光体として使用するのにあたって、帯電器はコロト ロン、スコロトロンなどのコロナ帯電器、帯電ロール、 帯電ブラシ等の接触帯電器などが用いられる。露光はハー ロゲンランプ、蛍光灯、レーザー(半導体、He-N e)、LED、感光体内部露光方式等を用いて行われ る。現像行程はカスケード現像、1成分絶縁トナー現 像、1成分導電トナー現像、二成分磁気ブラシ現像など の乾式現像方式や湿式現像方式などが用いられる。

ルト転写などの静電転写法、圧力転写法、粘着転写法が 用いられる。定着は熱ローラ定着、フラッシュ定着、オーブン定着、圧力定着などが用いられる。 クリーニング にはブラシクリーナー、磁気ブラシクリーナー、静電ブ ラシクリーナー、磁気ローラークリーナー、ブレードク リーナー、などが用いられる。

[0080]

【実施例】以下、本発明を実施例及び比較例により更に 詳細に説明するが、本発明はその要旨を越えない限り、 これらに限定されるものではない。なお、実施例中 「部」とあるのは、「重量部」を示す。実施例及び比較 例において感光体基体の作成においての使用材料は、下 記の通りである。

- 1. ETFF (エチレンテトラフルオロエチレン共重合体、旭硝子社製、商品名「アフロンCOP C55AP」)
- 2. PBT (ポリプチレンテレフタレート、三菱エンジニアリングプラスチック (株) 社製、商品名「ノバドール5020」)
- 20 3. PC (ポリカーボネート、三菱エンジニアリングブラスチック (株) 社製、商品名「ユーピロンE200 0」)
  - 4. TPEE (熱可塑性ポリエステルエラストマー、東洋紡績 (株) 社製 商品名「ペルプレンロP 1 5 0 B」)
  - 5. アセチレンブラック(電気化学(株)社製、商品名 「デンカブラック」)

【0061】実施例及び比較例において感光体基体の実験、評価方法は、下記の通りである。

30 1.表面固有抵抗 (Ω/□)

抵抗計ハイレスタHAプローブ(ダイヤインスツルメンツ社製)を用い、測定電圧500V、測定時間10秒にてチューブ円周方向10mmピッチで測定した。

2. 体積固有抵抗 (Ω·cm)

抵抗計ハイレスタHRSプローブ (ダイヤインスツルメンツ社製)を用い、測定電圧100V、測定時間10秒 にてチューブ円周方向10mmピッチで測定した。

3. 内径精度

3次元寸法測定器にてシームレスチューブを切り開い 40 て、チューブ両端及び中央の円周寸法を測定し、平均内 径に対して±0.5%以内である場合を〇、0.5%を 越える場合を×とした。

4. 外表面粗さ

(株)東京精密製、表面粗さ形状測定機「サーフコム5 70A」にてチューブ外表面の十点平均粗さを測定した。

5. 熱収縮率

100℃で1時間加熱後、常温で放置したときの収縮率を求めた。

【0059】転写行程はコロナ転写、ローラー転写、ベ 50 【0062】以下、具体的実施例により本発明のシーム

レス感光体ベルトをさらに説明する

[実施例1]材料としてPBT65重量%、PC20重量%、アセチレンブラック15重量%を配合した材料を30のの押出機で混練し、ペレット化する。得られたペレットを環状ダイ付き40のの押出機を用い、環状ダイより下方に溶融チューブの状態で押し出す。押出した溶融チューブを、環状ダイと同一軸線上に支持棒を介して装着した、ゆ180の冷却マンドレル外表面に接触させて冷却固化させ、シームレスチューブとした。

【0063】次に、シームレスチューブの中に設置され 10 ているローラと、外側に設置されているロールにより、シームレスチューブを円筒形を保持した状態で引き取り、幅方向にカットしてシームレス感光体基体を得た。 結果は表1 に示す通りである。 \*\*

(感光層Aの作製)下記構造を有するアゾ化合物10部を150部の4-メトキシー4-メチルペンタノンー2に加え、サンドグライドミルにて粉砕分散処理を行った。とこで得られた顔料分散液をポリピニルブチラール(電気化学工業(株)製、商品名#6000-C)の5%1、2-ジメトキシエタン溶液100部及びフェノキシ樹脂(ユニオンカーバイド社製、商品名PKHH)の5%ジメトキシエタン溶液100部の混合液に加えて、最終的に固形分濃度4.0%の分散液を作製した。【0065】

(化1)

$$Q_{N}^{N} = \begin{cases} R_{N} - Q_{N-N} - Q_$$

【0.066】との電荷発生層液即ち感光層液をリングコーターを用いてシームレスベルト上に、その乾燥膜厚が、 $0.4g/m^2$ (約 $0.4\mu m$ )となるように電荷発生層即ち感光層を設けた。

【0067】(電荷移動層の作製)次にとの電荷発生層 上に次に示す電荷輸送剤95部と、

(化2)

電子吸引製化合物として次に示すシアノ化合物1.5部 【化3】

及びポリカーボネート樹脂(三菱ガス化学(株)製、商品名Z-200)を100部をテトラヒドロフラン、ジ 40オキサンの混合溶媒に溶解させた液を浸漬塗布した後、125℃で25分乾燥させ、その乾燥膜厚が21μmになるように電荷移動層を設けた。このようにして電子写真感光体が得られる。得られた電子写真感光体を図1の装置に設置し、画像を評価したところ、画像ムラが発生しなかった。

【0068】 [実施例2] 材料としてPC65重量%、PBT20重量%、アセチレンブラック15重量%を配合した材料を用いたこと以外は実施例1と同様にシームレス感光体基体を得た。結果は表1の通りである。この

シームレスベルト上に実施例1と同様な感光層を形成 し、得られた電子写真感光体を実施例1と同様に、画像 を評価したところ、画像ムラが発生しなかった。

【0069】[実施例3]材料としてETFE84重量%、アセチレンブラック16重量%に配合した材料を用いたこと以外は実施例1と同様にシームレス感光体基体を得た。結果は表1の通りである。このシームレスベルト上に実施例1と同様な感光層を形成し、得られた電子写真感光体を実施例1と同様に、画像を評価したところ、画像ムラが発生しなかった。

【0070】 [実施例4] 材料として熱可塑性ポリエス テルエラストマー (TPEE) 84重量%、アセチレン ブラック16重量%に配合した材料を用いたこと以外は 実施例 1 と同様にシームレス感光体基体を得た。結果は 表1の通りである。とのシームレスベルト上に実施例1 と同様な感光層を形成し、得られた電子写真感光体を実 施例1と同様に、画像を評価したところ、幅1mmの僅 かな画像ムラが発生していたが、実用レベルであった。 [0071] [実施例5] 材料としてPC85重量%、 アセチレンブラック15重量%に配合した材料を用いた こと以外は実施例 1 と同様にシームレス感光体基体を得 た。結果は表1の通りである。とのシームレスベルト上 に実施例1と同様な感光層を形成し、得られた電子写真 感光体を実施例1と同様に、画像を評価したところ、幅 2mmの僅かな画像ムラが発生していたが、実用レベル であった。

【0072】 [実施例6] 実施例1のシームレス感光体 基体の上に、以下のように感光層Bを形成した。

(感光層Bの作製) Cu Kαによる粉末X線回折パターンを示すオキシチタニウムフタロシアニン10部、ポリビニルブチラール(電気化学工業(株)製、商品名#6

000-C)5部に1,2-ジメトキシエタン500部を加え、サンドグラインドミルで粉砕、分散処理を行った。

【0073】 この分散液に実施例 1 と同様にリングコーターを用いてシームレスベルト上に、その乾燥膜厚が、 $0.3g/m^3$ (約 $0.3\mu m$ )となるように電荷発生層即ち感光層を設けた。

(電荷移動層の作製)次に、この電荷発生層上に、次に 示すヒドラゾン化合物56部と、

[1k4]

次に示すヒドラゾン化合物 1 4 部 【化5】

及び下記のシアン化合物1.5部 【化6】

16

及びポリカーボネート樹脂(三菱ガス化学(株)製、商品名2-200)を100部をテトラヒドロフラン、ジオキサンの混合溶媒に溶解させた液を同様に塗布した後、125°Cで25分乾燥させ、乾燥膜厚が17μmになるように電荷輸送層を設けた。このようにして得られた電子写真感光体を図1の装置に設置し、画像を評価したところ、画像ムラが発生しなかった。

【0074】 [比較例1] 材料としてETFE70重量%、PC15重量%、アセチレンブラック15重量%に10配合した材料を用いたこと以外は実施例1と同様にシームレス感光体基体を得た。結果は表1の通りである。このシームレスベルト上に実施例1と同様な感光層を形成し、得られた電子写真感光体を実施例1と同様に、画像を評価したところ、局部的に抵抗が変化している箇所に相当する部分のみ幅20mmの画像ムラが発生した。

【0075】【比較例2】材料としてPC85重量%、アセチレンブラック15重量%に配合した材料を用いたと以外は実施例1と同様にシームレス感光体基体を得た。ただし、抵抗変化率を大きくする目的で環状ダイに部分的にエアーを吹き付けた。結果は表1の通りである。

【0076】シームレスベルト上に実施例6と同様な感光層を形成し、得られた電子写真感光体を実施例1と同様に、画像を評価したところ、局部的に抵抗が変化している箇所に相当する部分のみ幅20mmの画像ムラが発生した。

【0'077】 【表1】

30

马林 机燃料 医多种种

- 1 位置を	後 西 発 路 路 の 高	事を画を対して、一般を表して、一般を表して、一般を表して、一般を	から 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日	存式中 御事る 蒋の書	体 を を な な な な な な な な な な な な な な な な な	存集格技事の20年間の多20年間の最大値/最小館の数代の数大館	東ばきなっ	十名 点题 华·20	数の数	### ##################################		
1×10*		<b>∞</b>	3	1×10	<b>60</b>		# 4%	1 µ IB	0.3%	87.BK	V	回義異常なし
N X X	-	8	3	1×10°	∞	Ď	∓5%	1,4 11	0.2%	90度	4	国権関係なり
1×10	-		10	1×10°	11	9	<b>∓</b> 2%	1 µ m	1.5%	到001	<	東部本
1×10,	-1-	<b>S</b>	10	, el XI	0 7	2 2	<b>*2</b>	lum.	2.5%	75 #8	∢	第15日日以下 15日日以下
1×10°	T.	80	<b>60</b>	1×10°	10	88	<b>¥9∓</b>	10.1	0.2%	86.JE	4	面25日以下面像表布
16.	1	œ	8	1×10,	60	4	# <b>4 %</b>	n n	0.3%	1001	ø.	国後其名なし
1×10	•		10	1×10	80	18	724	1 # 11	%1	95度	<b>4</b> A	高20 高20 高高 高
1×10	1 -	1.5	15	1×10	2.0	20	<b>%</b> 9∓	1 1	0.2%	85 <b>)</b>	¥	面20日日 東部
	- 1									स्टब्स् स		
					<b>\$</b> -		,		•	<b>*</b> ***	) }::-	
			,							E LE		i S
							, g <sup>2</sup>			- <del>- 100</del> 5.	· .	h.
					J. 1					ا المتحدد الم		
				e.	٠, ·	\$ .						
,		. •		• •					∛ 1	) 	-	
					-			•	٠			
			ı				*		. *			
			4, 21			2.	· . ·		- 1	17 24	•	
							₹ 1		٠.			

### [0078]

42.70

【発明の効果】以上説明したように、本発明のシームレ ス感光体ベルトによれば、ある特定の電気抵抗値を有し た感光体基体であるシームレスベルト上に感光層を塗布 してなるシームレス感光体ベルトは、優れた耐久性をも ち、電子写真式複写機、レーザービームプリンタ等に用 40 いることで鮮明な画像を得ることができる。

ar containing

更强的 医多种性 经基本 

#### 【図面の簡単な説明】

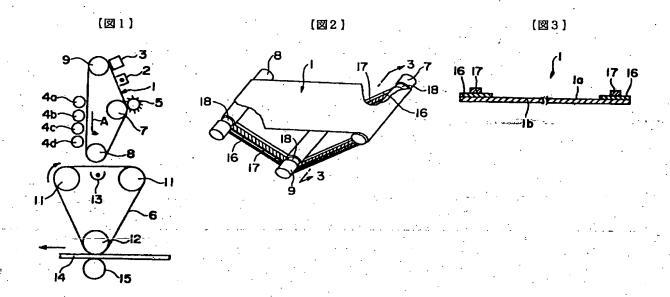
【図1】本発明のシームレス感光体ベルトを組み込んだ 電子写真方式の複写機における要部を概略的に示す構成 説明図である。

【図2】本発明のシームレス感光体ベルトを概略的に示 す斜視図である。

【図3】図2に示されるシームレス感光体ベルトを3-3線に沿って切断して示す断面図である。

## 【符号の説明】

- 1 シームレス感光体
- 帯電器
- 露光用光学系
- 4a~4d 現像器
- クリーナー
- 6 中間転写体
- 7~12 搬送ローラ
- 静電転写部
- 14 記録紙
- 押圧ローラ 15
- 16 補強テープ
- 蛇行防止ガイド 17
- 18 蛇行防止ガイド係合用の溝



フロントページの続き

(72)発明者 鈴木 慎一 神奈川県横浜市青葉区鴨志田町1000番地 三菱化学株式会社横浜総合研究所内

P4443

THIS PAGE BLANK (USPTO)